

図書館概論

概要

以下項目を設定し講義形式で行う。

「図書館の意義と役割」（図書館の定義と機能、社会的位置づけと現状について解説） 「図書館の自由」（基本的人権と図書館の知的自由について解説） 「図書館職員」（職員の役割と性格、資格について解説） 「図書館の歴史」（図書館の歴史の変遷と今日の図書館の成立について解説） 「館種別図書館の役割と課題」（館種による役割と課題について解説） 「図書館協力とネットワーク（サービス）」（連携と協力の現状と必要性について解説） 「関係法規と政策・新時代への図書館考察・課題と展望」…課題と展望、関係法規と政策について解説。

担当教員	吉田 和紀
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年司書
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

図書館の機能や社会における意義と役割についての理解を図るとともに、図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係、今後の課題と展望、関連する法規と政策等、図書館が置かれている現状と基本について習得することを目標とする。

各回の内容

1. 図書館の意義と役割（1）・図書館の定義（「図書館法」「ランガナタンの五法則」等から）・図書館の構成要素と機能
2. 図書館の意義と役割（2）・図書館の社会的意義（「ユネスコ公共図書館宣言」、コミュニティと図書館）
3. 図書館の意義と役割（3）・図書館の現状と動向（生涯学習と情報化社会を踏まえて）
4. 図書館の自由（1）・図書館と人権（基本的人権、日本国憲法と図書館）
5. 図書館の自由（2）・図書館の知的自由（「図書館の自由に関する宣言」）
6. 図書館職員（1）・図書館職員の役割と資格・図書館職員の法的性格
7. 図書館職員（2）・「図書館職員の倫理綱領」
8. 図書館の歴史（1）・図書館と記録の歴史・世界の図書館
9. 図書館の歴史（2）・日本の図書館
10. 図書館の歴史（3）・公立図書館の成立と展開・図書館協会の役割（図書館関係団体を含めて）
11. 種別図書館の役割と課題（1）・公立図書館と公共図書館・国立図書館（利用者ニーズ・図書館法及び国立国会図書館法の解説を含めて）
12. 館種別図書館の役割と課題（2）・大学図書館・学校図書館（利用者ニーズ・学校図書館法及び大学設置基準の解説を含めて）
13. 館種別図書館の役割と課題（3）・専門図書館・各種図書館（利用者ニーズ・設置関係法規の解説を含めて）
14. 図書館協力とネットワーク（サービス）・相互協力と情報ネットワーク・類縁機関と関係団体
15. 図書館関係法規と政策（著作権法・文字活字文化振興法）・新時代への図書館考察・課題と展望

準備学習（予習・復習等）

本講義では、指定テキストの他に、講義内容のポイントと指定テキストの該当ページを示した資料を事前配布することとしている。当該資料の活用については講義時に解説する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

課題レポートにより行う。(100%)

教科書

『図書館概論』五訂版（JLA図書館情報学テキストシリーズ 1） 塩見昇編著 公益社団法人日本図書館協会 2018.12
1,900円（本体）ISBN：978-4-8204-1813-9

参考文献

その都度、講義の中で示す。

図書館制度・経営論

概要

図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について解説するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態等について解説する。

担当教員	遠藤修司
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科1年司書
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

図書館に関する法律および関連する領域の法律について理解できる。図書館政策について理解できる。図書館経営のPDCAについて理解できる。図書館の新しい経営について理解できる。

各回の内容

1. ガイダンス 図書館の制度1 図書館法
2. 図書館の制度2 他の館種に関する法律等
3. 図書館の政策
4. 指定管理者制度による図書館の見学（11月第3土曜日または第4土曜日を予定）
5. 図書館の経営1 経営・使命と目的
6. 図書館の使命と目的（グループワーク：図書館の使命と目的を作ろう）
7. 図書館の経営1 組織
8. 組織とは（グループワーク：トランプ企業）
9. 図書館の経営2 計画・評価
10. 図書館サービスの設計1 サービスとニーズ
11. 図書館サービスの設計2 図書館のマーケティング
12. 図書館サービスの設計2 サービスと著作権
13. 情報資源・図書館施設・人的資源の経営
14. 予財務と予算について
15. 図書館の広がる役割・新しい経営
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

テキストの該当箇所を通読すること。授業で配布した資料を基に、授業の事前・事後学習として1時間以上が必要。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

期末テスト50%、小テスト40%、図書館見学への参加とレポート10%

教科書

永田治樹 編著 「図書館制度・経営論」 JLA図書館情報学テキストシリーズ 2
 高山正也・植松貞夫 監修 「図書館制度・経営論」 現代図書館情報学シリーズ 2 樹村房
 柳 与志夫 著 「図書館制度・経営論」 ライブラリー図書館情報学 4 樹村房

参考文献

授業中にその都度紹介する。

図書館サービス概論

概要

図書館サービスの考え方と構造の理解を図り、資料提供、情報提供、連携・協力、課題解決支援、障がい者・高齢者・多文化サービス等の各種のサービス、著作権、接遇・コミュニケーション等の基本を解説する。

担当教員	遠藤修司
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科1年司書
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

図書館サービスの考え方と構造が理解できる。資料・情報提供サービスについて理解できる。利用者対象別サービスが理解できる。アウトリーチ・図書館協力について理解できる。著作権について理解できる。図書館員としての接遇・コミュニケーションについて理解できる。

各回の内容

1. ガイダンス・図書館サービスとは
2. 図書館サービスの意義と理念
3. 資料提供サービス1 資料提供サービスの種類と内容
4. 資料提供サービス2 貸出
5. 図書館サービス小史1 公共図書館の基盤整備から中小レポート
6. 図書館サービス小史2 図書館利用者のニーズとサービスの多様化
7. 情報提供サービス1 レファレンスサービス・図書館利用教育・読書相談
8. 情報提供サービス2 情報サービス
9. 情報提供サービス3 間接サービスとレファレンスサービスにおける協力
10. 利用者対象別サービス1 利用対象別サービスとは
11. 利用者対象別サービス2 青少年から一般成人を対象としたサービス
12. 利用者対象別サービス3 図書館利用に障害を持つ人々へのサービス1
13. 利用者対象別サービス4 図書館利用に障害を持つ人々へのサービス2
14. 図書館協力・課題解決サービス・コミュニティーサービス
15. 図書館サービスと著作権 まとめ
16. 試験
17. 図書館及び類縁機関の見学（8月第2木曜日が金曜日予定）

図書館サービス概論

準備学習（予習・復習等）

前回授業の復習及び課題が出た場合にはこれに取り組むこと。授業の事前・事後各1時間の学習が必要である。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

確認テスト40%、図書館・類縁機関の見学によるレポート10%、期末テスト50%

教科書

本学作成資料をその都度配布する。各自ファイルに整理し保管する。

参考文献

授業中にその都度紹介する。

情報サービス論

概要

地域にある情報を意識し、情報とは何か、情報提供サービスとは何かを考える。又、図書館にある各種情報資源を使い、調査を通して、レファレンスサービスへとつなげる。

担当教員	岩井千華
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科1年司書
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

図書館館内のみならず、地域にある情報の存在を意識できるようになり、又、図書館にある各種情報資源を使い調査ができるようにし、レファレンスを理解する。

各回の内容

1. 情報および図書館における情報提供サービスとは何か
2. 情報の定義および情報提供サービスの理解
3. 地域社会から求められる情報・視聴覚資料「暮らしに生きるレファレンス」
4. 情報サービスの意義と理論
5. 情報サービスの方法と技術
6. 情報サービスの実践
7. 1次資料とNDL検索
8. 書誌の違いと実際の資料検索
9. 論文の読み方
10. 各情報源の活用と発信（グループワーク）
11. 各情報源の活用と発信（グループワーク）
12. グループワーク成果の共有とレファレンスサービス協同データベース
13. レファレンスサービス
14. レファレンスサービス
15. 図書館におけるレファレンスサービスの意義と司書の役割を考える

準備学習（予習・復習等）

図書館に通い資料全般になじむ。日常的に図書館を活用し紙媒体の百科事典や国語辞書、参考図書を用いて調べることに慣れる。身近な公共図書館へ行って実際にレファレンスサービスを受けてみる。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

出席20% 振り返りシート20% グループワーク成果20% レポート20%

教科書

中西裕・松本直樹・伊藤民雄『情報サービス論及び演習』学文社

参考文献

図書館情報資源概論

概要

公共図書館が所蔵する各種の情報資源（印刷資料・非印刷資料・電子資料・ネットワーク情報等）の定義・歴史・意義・特質と、それらを収集・保存・提供していくために、司書としての基本的な心得(図書館法・倫理綱領・図書館学の五法則等)について学ぶ。

担当教員	邊見 美江子
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科1年司書
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

公共図書館が所蔵する各種情報資源の定義・歴史・意義・特質等を知り、それらを収集・保存・提供していくための司書としての心得(図書館法・倫理綱領・図書館学の五法則等)を知る。

各回の内容

1. 知の装置としての図書館	図書館法・倫理綱領・図書館学の五法則・著作権等
2. 知の装置としての図書館	図書館サービスの基本機能等
3. 図書館情報資源	図書館の扱う資料情報
4. 印刷資料の歴史・類型・特質	図書資料
5. 印刷資料の歴史・類型・特質	雑誌・新聞等
6. 非印刷資料の歴史・類型・特質	点字資料・録音資料
7. 非印刷資料の歴史・類型・特質	MF・CD・DVD等
8. 電子資料・ネットワーク情報源の類型・特質	
9. 図書館資料のデジタル化・電子書籍・電子出版	
10. 地域資料 行政資料・灰色文献・政府刊行物	
11. 人文・社会科学・自然科学分野の情報資源と特性	
12. 資料情報資源の生産	出版・流通
13. 蔵書・コレクションの形成	蔵書・選択収集・予算管理
14. 図書館情報資源の組織化	受入・登録・目録・装備
15. 図書館情報資源の保存	まとめ 資源共有・蔵書管理・資料保存等

準備学習（予習・復習等）

- ・参考資料を読む
- ・前回の授業の復習

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

参加態度(質問回数・積極性・協調性等)20%、課題及び演習60%、総合評価20%

教科書

適時、本学作成資料を配布

参考文献

馬場俊明編著『図書館情報資源概論 JLA図書館情報学テキストシリーズ 8』日本図書館協会 2012年
高山正也・平野英俊著『図書館情報資源概論 現代図書館情報学シリーズ8』樹村房 2012年